

令和7年度 林野公共事業事業評価有識者委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和7年7月16日（水） 13：30～15：10
- 2 開催場所 北海道森林管理局3階 大会議室
- 3 出席者 委員：丸谷委員長、庄子委員、西村委員
局担当者：善行総務企画部長、武田森林整備部長
福井森林整備第一課長、橋詰森林整備第一課造林係長
佐々木整備第一課企画係、名田森林整備第一課企画係
梶村森林整備第二課長、高井森林整備第二課技術指導官
中澤監査官、阿部監査係長
- 4 議事
森林整備事業（完了後の評価4件）について
- 5 議事概要
森林整備第一課から評価資料の説明後に審議

【整理番号1 胆振東部】

（委員）

⑥今後の課題等の地元の課題等の地元の意見に安平町の意見がないのは何か事情があるのか。震災の影響はどうかと思う。

（局）

安平町には国有林が所在していないため意見は伺っていない。

（委員）

（胆振東部地震の際）むかわ町、厚真町の被害はどうだったか。

（局）

当時の被害地は、国有林でない箇所であった（厚真町に国有林はない）。

（委員）

評価結果の必要性に、「木育」という表記があるが、森林整備事業と木育は関りがあるのか疑問。森林整備事業の目的にあるのであれば分かるが、なければ記載の必要はないと考える。

(委員)

国有林があることにより、どの地区でも木育が関わるため、記載の必要は無いと思うので消しましょう。

(委員)

特にこの地区で木育に力を入れて推進しているのか。

(局)

文脈になるが、「むかわ町及び北海道と地域主体の一体的な森林づくり協定を締結し」と記載しているので、協定の内容に沿って木育も実施しており、その協定には森林整備も含まれる。この記載は、協定の全体像の中で森林整備をしっかりとしたということを記載したと解釈できると思う。特にこだわりはない。

(委員)

特に必要がなければ消して下さい。

(局)

承知した。

(委員)

この協定は、むかわ町と北海道と（胆振東部署の）3者で締結したのか。

(局)

そのとおり。むかわ町内に関しての3者協定である。

(委員)

整理番号2に関連するが、中頓別町の「森林整備協定」と「森林づくり協定」の違いは何か。

(局)

名称は違うが、大枠は同じもの。

(委員)

B/C が（事前評価の）半分以下に落ちている。前回も話があったが計算のやり方がプログラムで数値が自動的にはじき出されると思うがどうか。

B/C についての意見は無いか。

(委員)

全ての地区において事前評価の B/C より下がっているが、胆振東部に関しては費用も便益も増え7という比較的高い数値ではあるが、網走の2署については、かな

り低く、宗谷も含め費用は上がっているが、便益は下がっている評価になっており、要因は多少文章で触れているが、どういう要因で便益が下がってしまったか、全体通じて同じような要因なのか、それぞれの地域ごとに違う要因があるのか。

(局)

各地区とも費用が上がり概ね便益が下がっている要因として、労務単価や材料費、燃料費の上昇に加え、事業地の奥地化により木材の搬出距離が長くなった等の条件の変化により単価ベースが高くなったことが要因と考えている。

地域差については、一概には言えないが、例えば胆振東部については、下刈面積が非常に多くなっていることにより便益が高くなっていると考え。逆に網走の2署のB/Cが低いのは、保育間伐の割合が高くなっており、保育間伐は単価の高い作業種のため費用が掛かり増しになっていると考え。

(委員)

下刈が多いことは便益部分にも反映されるのか。保育間伐は便益が現れにくいものか。

(局)

便益に反映する要素は保育面積であり、面積が大きければ便益が大きくなる。一方、単価は費用Cの方なので費用が高ければ、高い費用で事業を行わなければならないこととなる。

(委員)

施業した面積が当初の計画より多くなったり多くならなかったりしたので便益が大きく出たり低く出たり差が出ているということか。

(委員)

胆振東部の下刈はすごく多く感じるがなぜか。

(局)

平成16年の台風被害が大きく、その後復旧した造林地を毎年300～500haの面積で更新し、その箇所の下刈が積み上がった形となる。

(委員)

了解した。

(委員)

評価個表の①について、要因の変化については文章できちんと説明されているが、説明文章の下に費用便益分析の結果を記載してあるため、分析の結果を上の記事で説明されていると読める。そうすると、この文章は4地区とも全て同じなの

で、地区ごとに事情があって変わるという説明がされていないと思われる。費用便益の分析結果は他の所に記載があるので記載しなければこの表の整合性が取れるが、数値を入れると他の箇所と並べて見られ、なぜ（地区ごとに）説明しないのかと思われる。

費用が増えていたり、便益が増えていたりするのは地区によってばらつきがあるのでその説明になってない。

（委員）

変動の理由を書くのは難しいが、便益の部分を別欄に書く方法は無いか。

（局）

この欄は、書き方が決まっている。個別の事情を勘案して記載するとなるとかなりのボリュームになってしまうので難しい。

（委員）

今後、大枠直すときにそういう意見が出ましたと言っていたきたい。

（委員）

便益と総費用が変わったところ、地域ごとに変わった理由がそれぞれあるはずなので、ここは欄を別にすべきと本庁に聞くべき。

（局）

本庁に確認して変更がなければ、有識者の意見として伝える。

（委員）

確かに、地域の差異を説明して記述するとなると相当な文章になるし大変な作業となるので、（文章と便益分析の）間に線を引いて分ける程度で良いのではないか。

一応、本庁に確認すること。

（委員）

4 署とも同じだが、①に「事業地の奥地化及び急傾斜地など作業条件の厳しい箇所」とあるが、苫小牧周辺は確かにそうかと思うが、経験では稚内や網走方面は割合緩やかな山稜の気がするが如何か。

（局）

総論として、北海道に限らず全国的に条件の良いところから作業を始めていて、年数がたつにつれ事業地が奥地に移行していくという傾向にあるので、総論的に書いている。

(委員)

「奥地化及び急傾斜地」と書いているが、急傾斜地ではなく起伏量が大きくなるということだと思う。苫小牧は急傾斜で良いが、他の地区は起伏量が大きくなると思うので検討されたい。

(委員)

全国的な傾向であれば、九州と北海道の事業評価が同じ記載になり疑問に思う。現実的に急傾斜地があると思うが、九州と比較すると同じではない。

(局)

文章については統一されているものではないため、おそらく他局ではそこに応じた対応で記載されていると思う。

「急傾斜地」という表現にこだわる必要は無く、作業条件の厳しさを表しており、地形的に見て作業条件が厳しいということを表示したい。表現について検討する。

(委員)

評価結果の「必要性」のところで、農業と水産業は記載されているが林業が記載されていない。国有林の施業自体が民有林や道有林にも関連しているため「地域の林業」という文言を入れたほうが良いのではないか。

(局)

我々が現在世の中に訴えているのが民有林への事業の普及ということもあるので、委員の仰る方向に修正を検討したい。

【整理番号2 宗谷】

(委員)

単価が上がリ費用が上がっているのはやむを得ないと思うが、便益が減っているということで、事業費ベースでみると事前の評価より事業費が小さくなっているが、当初計画していた基本の事業ができなかったということか。単価が上がっているのに事業費が小さいということはあまり事業ができなかったので便益が小さくなったのかと想像したが如何か。

(委員)

B/Cだけでなく、事業費そのものが小さくなったということか。

(局)

総事業費の関係については、個別の工事や事業の話はできないが、事業実行段階で優先度や状況を勘案して事業量が若干減ったことにより総事業費も変動している。

(委員)

そういう理解で良いということか。単価が上がっているので本当は総事業費も高くなってもおかしくないのだが。

計画段階で考えていた事業量を何らかの事情で実施できなかったということか。

(局)

全道的に事業を実施する中で、当初想定していた事業を別の計画に多く積むことが出てきてしまう。

(委員)

胆振東部は総事業費が上がっており、網走も少し上がっているか横ばいなので、宗谷だけが事業費が下がっているのが目立ってしまう。一般的には事業費は上がると思われるが、ここだけ減った理由が気になる。国有林全体としては本来 20 億かかる経費を 18 億でやったとしたら喜ぶのでは。

(局)

もちろん潤沢な予算があるわけではないので、なるべくコストは抑えるという方向ではあるが、必要な事業量は確保しなければいけない。

(委員)

決まったとおり事業をやったが安く上がったということは歓迎されるべきことではないか。

(局)

そのとおり。そのために入札を行っている。

(委員)

事業的には万全に行ったが、2 億円くらい安く上がったという理解で良いか。

(局)

結構だと思う。ただ、労働力も減ってきており事業自体が落札してもらえないようなところも出始めている。我々の努力の届かない範囲でもあり悩ましいところ。

(委員)

B/C が 1 を切る状況となった場合、お金がマイナスになっても事業を続けるのか、事業を中止とするのか。

(局)

事前評価を行った際に B/C が 1 を切るような事業は計画自体の規模を変更する等して、1 を超えさせて効率的に実施することを検討する。B/C が 2 と 3 の事業のう

ちどちらを先にやるかというのも、B/C 以外に市町村の要望等も考慮して事業の採択の判断をしている。

評価期間の 5 年たって評価時点で 1 を切ることもあり得る。

(委員)

あり得る報告書が出てきた場合どうするのか。

(局)

原因の分析はするが、必要な事業は実施する。

(委員)

必要な事業があるのに止めてしまって後々禍根を残すのは一番良くないと思う。

(局)

1 を切るような場面が出てきたときには地元要望等を重視することも考えられる。

(委員)

宗谷及び網走地区についても評価結果の必要性には胆振東部同様に「地域の林業」を記載すること。

【整理番号 3・4 網走東部】

(委員)

P 1 の完了後の評価実施地区一覧表を見ると、網走の地区の総費用が 63 億円と 73 億円で、胆振東部、宗谷と比較すると約 1.5 倍となっているが理由は何か。

(局)

保育間伐という伐採系森林整備を行っており、その費用が全ての作業種の中で 1 番単価が高い。網走東部の方は木材の生産も沢山行っているので費用も高くなっている。

(委員)

P 92 の評価結果の必要性に「また、レクリエーションの森云々」と記載があるが、今回行われた森林環境保全整備事業でレクリエーションの森やフィールドで何か事業が行われたという理解で良いか。

(局)

レクリエーションの森の中で保全整備事業を行ったわけではなく、網走中部署の取組として行っていることを記載した。レクリエーションの森や保健文化のフィー

ルドの提供、保健文化の維持推進に寄与するところで、レクリエーション森の中で事業・伐採しているわけではなく、周辺の森林の整備を適切に実施することで全体に影響があるというイメージで記載した。

(委員)

P93 の便益集計表区分にレクリエーションが含まれていないのに、必要性の文章の半分を使うのは如何かと思う。

(委員)

便益集計表の中区分にレクリエーションというのはあるのか。

(局)

本来は保健休養便益というものがあるが、今回の事業評価ではその便益を算定するという手段をとっていない。

(委員)

評価結果の中でも重要な必要性の欄に、便益計算のされていないレクリエーション等を記載して良いものかと考える。

(局)

地域ごとに色を付けて評価したいと思い記載したが、便益に対応していないものを必要性に記載するのはどうかとの意見をいただいたので、記載について改めて検討する。

(委員)

「レクリエーションや国民参加の森づくりも提供するので森林整備を進めていく必要がある」のような書きぶりで扱いを少し下げては如何か。

(局)

承知した。

(委員)

レクリエーション便益があるというより、森林があること自体が既にレクリエーションの場であると思う。費用の計算はできるのか。

(局)

便益計算ができない。入山料をアンケート方式で調べる方法があるが、非常に難しく正確性に欠けるということから便益として採用していない。

(委員)

実は計算するとすごく高い金額になるが、信頼性の点で入れてない。生物多様性保全も本庁の方で検討しているが入れていない。景観とかも入れてないが、今後、景観は入れようとしている。緑化されたような法面が街から見えるようなものを計算。旅行費用から算出する。

(委員)

網走東部の2署は、B/C が7以上で予測していたものが2まで下がっており、結構低くなってしまっている印象がある。労務単価の上昇や人手不足で費用は分かるが便益評価が3分の2くらいまで下がってしまっている要因は何か。

(局)

便益は面積で増減すると説明させていただいたが、網走の2か所が4署の中で見ると面積の減少量が多い。それに対し各作業種で単価に違いがあり、1番高い保育間伐、次いで地拵、植付など、費用が掛かる作業種は他と比べてさほど減っていないので費用が高つく。下刈やつる切などの単価の安い作業種は他と比べて減ったため、面積は減りつつも費用は下がっていないことが便益に影響していると考ええる。

(委員)

今の説明がこの評価書の中に触れられていると非常に分かりやすくなり、決していい加減なずさんな見積もりをしていたわけではないことが分かれば良いと思う。

(委員)

今回は生かせるかどうか分からないが、面積見合いで大体計算するにしても、作業種によって単価が違うというところがポイント。評価書に書ければ良いのだが。

作業種の単価が分かればわかりやすい。個票の①の「労務単価によるものである」の後ろに「作業種によっても単価の積算が変わります」のような文言を入れてはどうか。

(局)

どのくらいのボリュームで記載できるか今はお答えできないが、「使用する単価の変動」等のもう少し分かりやすい文言を入れたいと思う。

(委員)

P90①の「実行段階における優先度を勘案した事業の実行に伴う事業量の変動」というのは、最初の計画を立てるときは必要だと言っていたものを実行段階で優先度が変わったので事業量が変わったということか。総便益が減ったということは事業をやらなかったということか。最初に計画した事業をしなかったということか。

(局)

その文言は、もともと計画していたものが何らかの影響によって減ったということ表現した文言となる。

(委員)

それは、労務単価も上がっているから、やれないから事業を実行しなかったということか。費用が増えているので、それを勘案して調整したというふうに考えて良いか。そうすると、本当は必要だけどやらなかったのではと思ってしまう。

(局)

そういった内容ではない。

(委員)

公表した時に、計画した時の事業量があったのに、費用が上がるのは分かるが便益が下がっているのは、やるべき事業をやらなかったのではないかなと言われないうかと思う。それに関する事をわかるように書いているのが一番良いが簡単にはいかないのでしょう。

(委員)

やらなかったという言い方でとられるけど、言ってみればトリアージみたいなもので、優先度があつてのことだから急ぐか急がないかのこと。

(局)

優先度を例えて言うと、事業地があるが、手前の林道が壊れてアクセスができなくなり、林道を直すために費用が掛かるので、他の地区に変更するというケースもある。一概には言えないがいくつかの事情により調整の必要があるので、一言で表現するのは難しい。いろいろな事情があつて・・というのを簡潔にしたイメージで記載した。

(委員)

(森林環境保全整備事業を) 土木工事のような公共事業と比較すると、何故こんなに便益が減るのかと見える。

(委員)

コンクリート構造物だここはやらないとか分かりやすいが、山の場合の優先度の理解は難しい。急ぎはしないので後回しにしましょうみたいにして次の計画に入れるということも出てくる。しかし、優先度以外に良い言葉は無い。

(委員)

この便益分析の手法は決まっているためどうこうできないが、色々な便益ももっ

と本当はあるのではないかという議論も本庁でやっていただきながら、コストも上がっていく可能性も高いと思われるので、検討していても良いと思う。

(委員)

今回、予定 7.27 が 2.63 なので次は 1 を割り込むと思い質問した。

(局)

評価書自体をそろそろ見直す時期が来ていると思う。基本は 20 年ほど前に公益的機能の年間評価額が 70 兆円と言っていた時代だったが、それでも貨幣価値換算可能な効果だけを足して 70 兆円であり、それ以外もあると付言していた。その当時、貨幣換算できなかったものが、今できるようなものがあると考えたという視点で見直してもらえないかと本庁に伝えることは可能だが、できるとは限らない。

(委員)

この議論は非常に難しい。B/C を落とさないため便益の上がるような項目を追加し新たにプログラムを変えて数値化して行こうという作業が本当に正しいのかというと、林業はそういうことができない仕事でもある。無理やり数値化して B/C 化することによって変なことになってしまう山があり得るので、難しい議論である。

将来的に問題となると思われる、本省のプログラム、記述の仕方の統一性の問題等を追々考えていくこととしましょう。

以上